

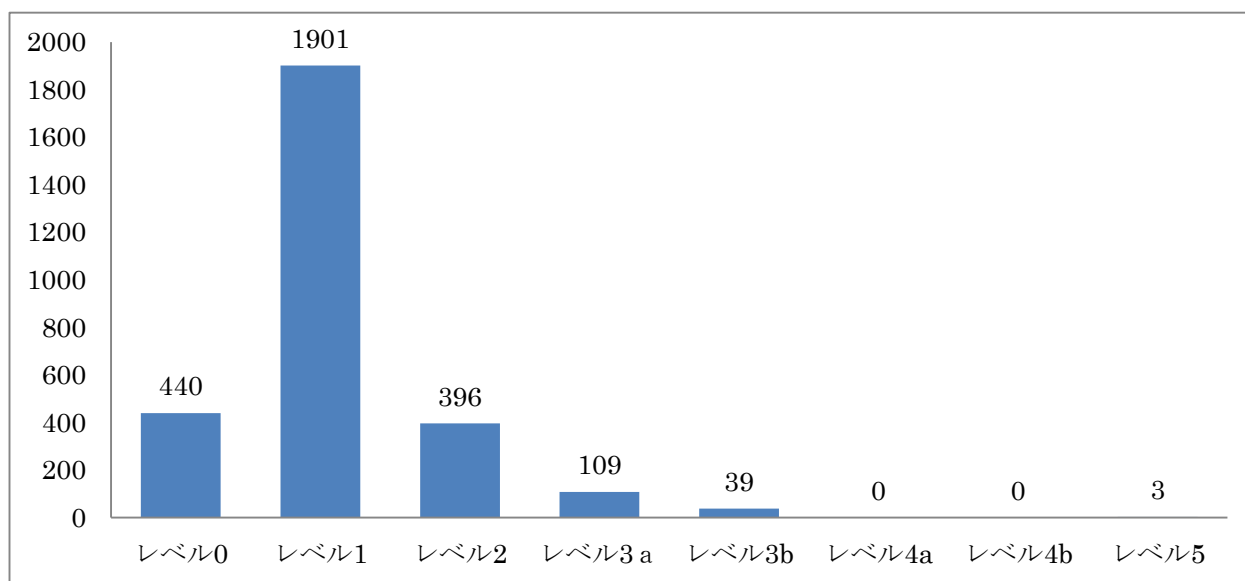
2019年度 年度集計報告（2019年4月1日～2020年3月31日）

報告総数 2888 件（昨年度 2750 件）

【インシデント 2846 件（昨年度 2702 件）】【アクシデント 42 件（昨年度 48 件）】

- ※1. 報告総数は医療事故に関する報告書の件数であり、同一事故を複数の職種が報告する場合があることから実際の発生件数とは異なる（発生件数より多い）。なお、報告件数は病床数の5倍以上が好ましいと言われている。
- ※2. 医療従事者の過失の有無にかかわらず、医療に関わる場所で医療の全過程に置いて発生する全ての人身事故、（そのおそれを含むほか、器械の不具合、患者の自傷行為、患者からの暴力報告なども含む）を報告するものである。身体影響度に応じて名称が分かれており、レベル0～3aをインシデント、3b～5をアクシデントという。

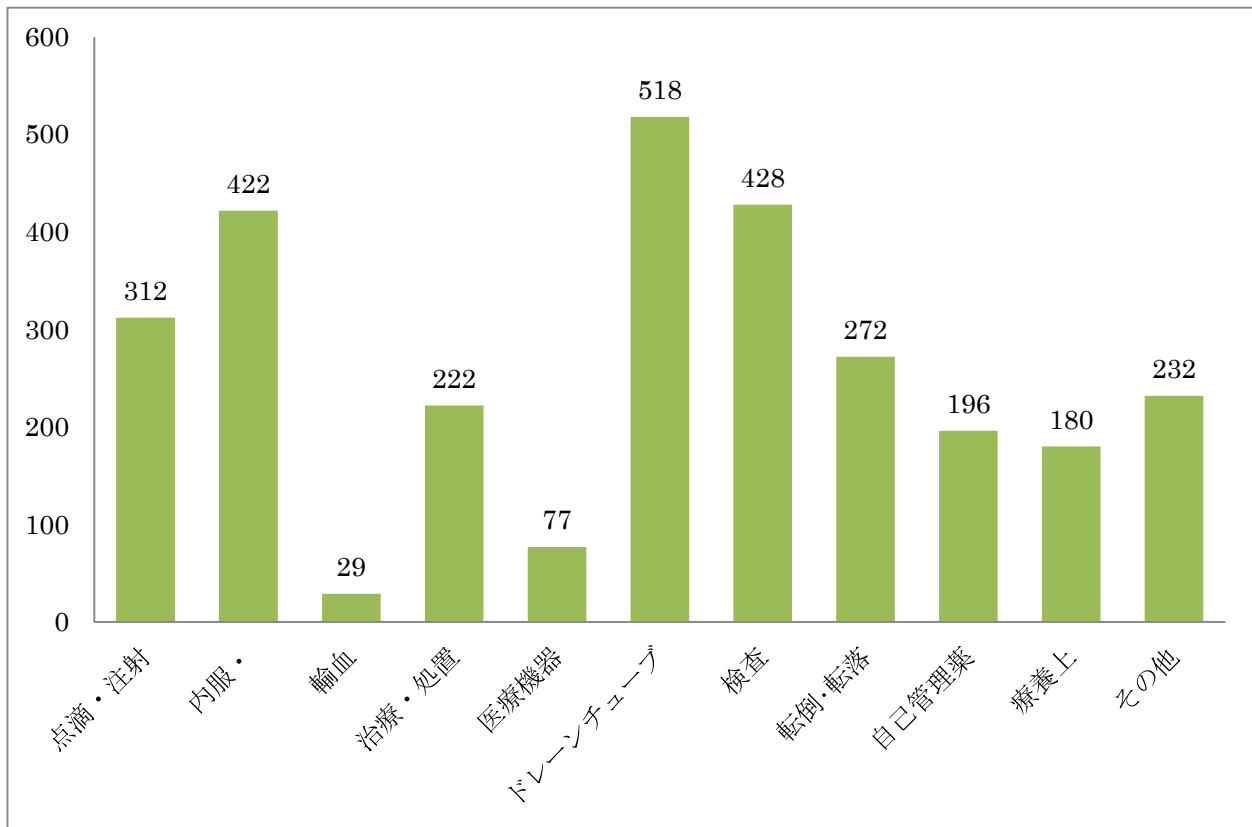
1. レベル別報告書件数



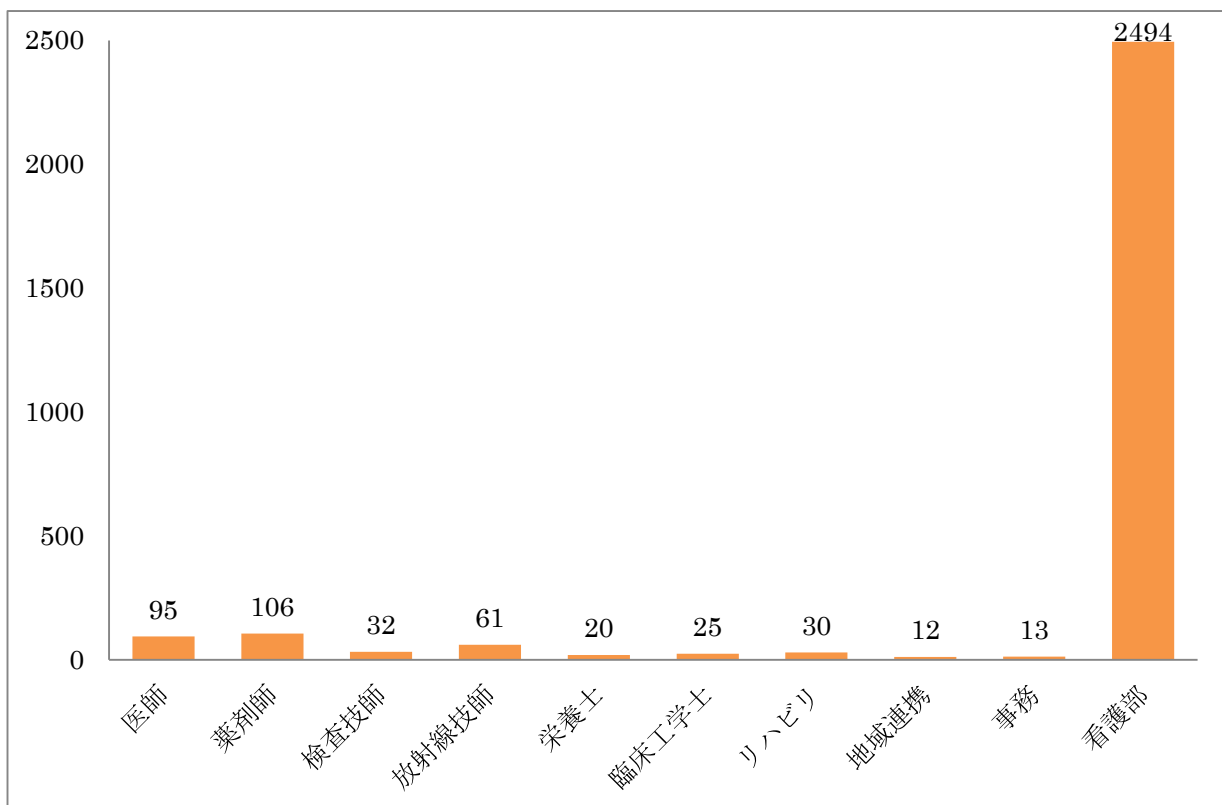
* 参考 身体影響度のレベルを以下の0～5レベルに分類する

レベル		障害の継続性	障害の程度	障害の内容
レベル0	インシデント	—		不適切な医療行為等が実施されなかったが、実施されていたら何らかの影響を与えた可能性がある場合
レベル1		なし		何らかの影響を与えたが、被害がなかった場合
レベル2		一過性	軽度	観察強化、バイタルサインの変化または検査の必要性が新たに生じた場合
レベル3a	中等度		簡単な処置や治療を要した場合 (消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与)	
レベル3b	高度		濃厚な処置や治療を要した場合 (バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)	
レベル4a	シデント	永久的	軽度～中等度	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない場合
レベル4b			中等度～高度	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う場合
レベル5		死亡		死亡した場合

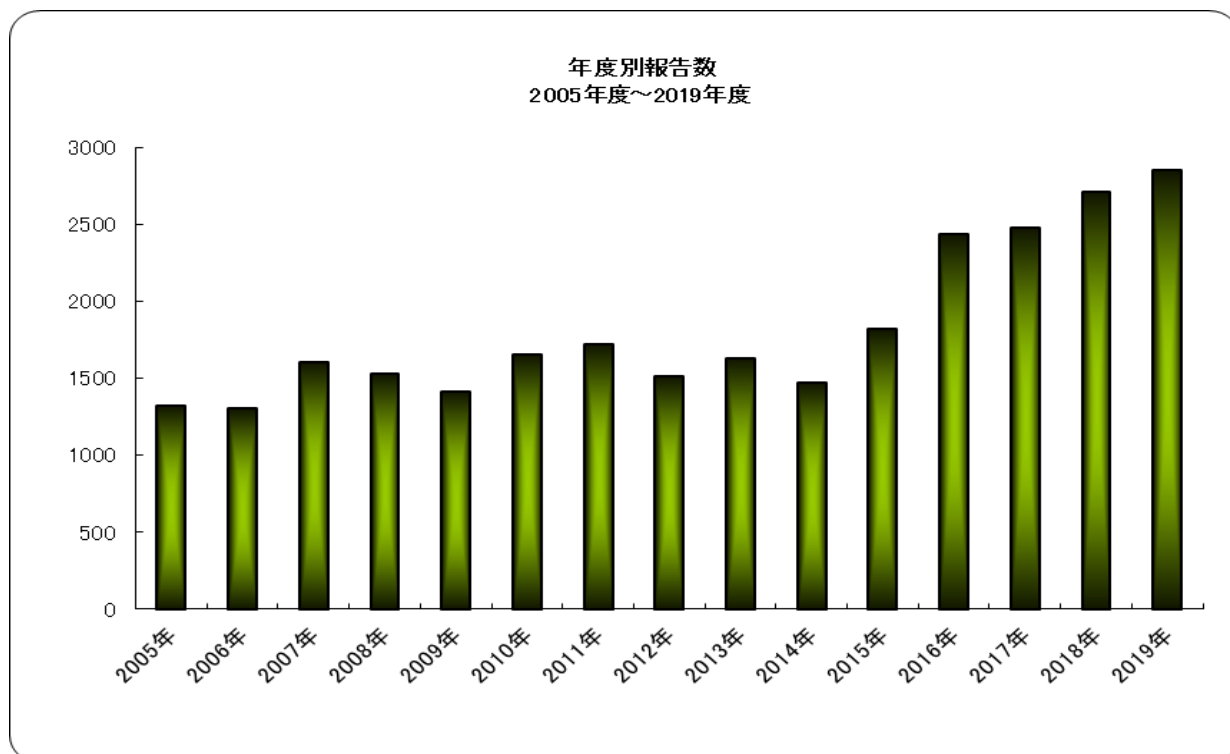
2. 報告内容別件数



3. 報告者別件数



4. 報告件数年度別推移



5. 内容別報告割合

